

- 田村学様 (文部科学省初等中等教育局主任視学官)による「深い学び」についての特別寄稿を掲載
- 県中教研 創設60周年 記念研究大会の報告
- 教科・領域の指定研究による「深い学びにいたる授業」の提案を紹介

授業情報誌 Class・深い学びにいたる授業 第9号 2024

県中教研が創設61年目で新たに目指す授業は何か?

新潟県中学校教育研究会 創設60周年記念
50周年から60周年の10年間の研究の歩み

指定研究推進事業
授業情報誌 Class
深い学びにいたる授業
学び合う授業づくり
ファシリテーション→学び合う授業

重点1 「深い学びの技法」を基に教科・領域の学習での具体化
重点2 「深い学び合い」の推進
重点3 中教研の「深い学び合い」の促進

Class

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～



新潟県中学校教育研究会

Class

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～

第9号 2024年(令和6年)10月

ISSN 2189-8111

生徒のよさや可能性を引き出す「深い学びの技法」

今年度、県中教研では、田中博之様（早稲田大学教職大学院）が提唱されている「深い学びの技法」を基に、「深い学びにいたる授業」を具体的に提案します。生徒が「深い学びの技法」を基に、自身のよさや可能性を伸ばし、主体的に課題解決に取り組むことを目指します。生徒それぞれのよさや可能性に応じて、「深い学びの技法」を活用し、生徒が学びを深めていくことは、「個別最適な学び・協働的な学び」の一環として、私たちが目指しています。

私たちが教師も「深い学びの技法」を基に授業を構想し、実践し、振り返り、ファシリテーションしながら、「深い学び合い」を目指します。

いながら、「深い学び合い」を目指します。

教師が「深い学び合い」のサイクル

各教科・領域で「深い学びにいたる生徒の」に迫るための「深い学びの技法」を構想し、お互いに授業実践を共有し、研究発表します。研究会の授業協議会で得られた実践事例を共有することで、会員が共に学び合う「深い学び合い」のサイクルが活性化します。

教師の「深い学び合い」には、ファシリテーションを促進する技法が有効に活用されています。以下にその方法を紹介します。

「深い学びの技法」を基に、授業の過程に取り組むか？また

「深い学びの技法」を定着させるためのポイントは？

単元・題材で3～4つ程度を選び、組み合わせて、手立てとして活用しましょう。

目的の生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き出すような技法になるように、教科・領域に応じて実践してみてください。

生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。深い学びの質的な向上を期待できます。

過程
設定 ①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する
②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする
③観点・観点・論点を設定して思考や表現をする
④R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する
⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする

表現 ①理由や根拠を自分の言葉で説明できるようにする
②重要な知識や知識を体系的に整理する
③既製の資料や資料を批判的に吟味検討する
④身につけた能力をメタ認知し成長につなげる
⑤学習成果を自己の関わりを振り返る
⑥学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

生徒の主体的な課題設定
思考
解決
表現
評価

目指す生徒の姿の設定
目指す授業の構想
研究推進委員同士による実践
研究会での成果発表
研究成果の共有

教師の主体的な学び合い
「ファシリテーション」を研究に取り入れる

START 生徒が課題を設定し、主体的な課題解決に取り組む

START 教師が深い学びの生徒の姿を設定し、研究推進委員同士で研究に取り組む

GOALS 生徒が互いに学びを深める

GOALS 教師が互いに学びを深める

よさ
教師が授業で付いた共通の成果をまとめることで、参加者同士で新たな視点や考え方を共有できます。

③④について新たな視点や考え方を共有します。

マトリックス法(主にKPT法)

協議会に当たって、個別のフレームを設定し、参加者の気づきを共有し、問題解決(改訂すべき事案)で、Try(改善方法や代案)を共有します。

②それぞれのフレームごとに、参加者の気づきを共有し、考えを深めます。

①本時の指導案を拡大して、授業で共有し、協議会に提出し、共有した成果をまとめる

ISSN 2189-8111